

『外台秘要方』所引『僧深方』輯佚（一）

——附、医籍五種（互照萃編）——

多田伊織

はじめに

本稿は『日本研究』四一号所載「史料紹介『医心方』所引『僧深方』輯佚——東アジアに伝播した仏教医学の諸相」の続編である。前回は、丹波康頼が永観二（九八四）年に撰進した現存する日本最古の医学全書『医心方』から、六朝期の僧侶・釈僧深によって編纂された散逸医書『僧深方』の輯佚を計った。今回は、唐・王燾（咸亨元 六七〇?）天寶十四 七五五）の編纂した医学全書『外台秘要方』から、『僧深方』の佚文を蒐めた。

『外台秘要方』では、『僧深方』を『深師方』として引用するが、これは早く孫思邈（天保二十 五八一～永淳元 六八二）の『千金方』（成立は六五〇～六五八年の間）²に始まる。

『深師方』と『僧深方』の二つの書名が存在することについて、森立之は、『枳園叢攷』の「崔氏方纂録深師攷」で、次のように考察し、

此に据れば、則ち孫真人はこれを尊びて深師と曰ひ、崔氏これに従ひ、王燾も亦た随ひてこれを襲ふ。其の書名の如きは則ち宜しく僧深方と曰ふべく、深師方と名づくる者有ること無き也。

と述べている。

森立之は「深師」の呼称を孫思邈に始まると見ている。ところで、脚氣論を扱う『千金方』卷七「湯液第二」に引く「道人深師増損腎瀝湯」の方には、次のような文言が見られる。⁴

道人深師増損腎瀝湯、：湘東王 江州に至り、王嶺南に在り、病 悉く此くの如く、極めて困篤たり。余 此の湯を作りて服さ令め、即ち力を得。病の此れに似たる者は、服すれば差えざること無し。宜しきに随ひて増損する方なり。

上記の薬方中の「余」とは誰だろうか。『千金方』を編纂した孫思邈は唐代の人物であり、唐代には「湘東王」に相当する人間はおらず、孫思邈ではあり得ない。

それより以前の時代を検すると、江州に關係する湘東王として、梁の元帝蕭繹が⁽⁵⁾いる。

世祖孝元皇帝 諱は繹、字は世誠、小字は七符、高祖の第七子也。天監七年(五〇八)八月丁巳 生まる。十三年(五一四)、

湘東郡王に封ぜられ、邑二千戸。…中大通六年(五三四)、出でて使持節・都督江州諸軍事・鎮南將軍・江州刺史と為る。

…太清元年(五七九)、徙りて使持節・都督荊雍湘司郢寧梁南北秦九州諸軍事・鎮西將軍・荊州刺史と為る。

脚氣に苦しめられた湘東王が梁の元帝だとすれば、彼に侍った医師は誰であろうか。それは薬の処方で名を馳せた北周・姚僧垣であらう⁽⁶⁾。

姚僧垣はもと梁に仕えていた医師で、湘東王にも仕えたことがあった。姚僧垣の父菩提は、自らの病をきつかけに医学に心を染め、子の僧垣はその業を継いだ。姚菩提は、方術についての梁武帝のよき話し相手であり、その言動が武帝の意に適ったことから、厚く遇された人物である⁽⁷⁾。

姚僧垣 字は法衛、呉興武康の人、呉太常信の八世の孫也。

…父菩提、梁の高平令。嘗て疾に嬰りて年を歴、乃ち心を医薬に留む。梁武帝 性 又これを好み、毎に菩提を召して方術を討論し、言 意に会ふこと多し、是に由りて頗るこれを礼す。…年二十四、即ち家業を伝ふ。…大同九年(五四三)、還りて殿中医師を領す。…十一年(五四五)、転じて太医正を領す。…太清元年(五七九)、鎮西湘東王府中記室參軍に

転ず。

太清元年(五七九)に鎮西將軍であった湘東王とは、先の「梁元帝本紀」の記述と照らし合わせると、後の梁元帝蕭繹その人である。おそらく、上記「道人深師増損腎瀝湯」の「余」とは、姚僧垣であらう。姚僧垣は、医書『集驗方』十二巻を編んでいる。

僧垣 医術高妙にして、当世の推す所と為る。前後の驗、勝げて記する可からず。声誉 既に盛んにして、遠く辺服に聞こゆ。諸蕃外域、咸 これを請託するに至る。僧垣 乃ち奇異を搜探し、徴を參校する者、集驗方十二巻と為す、又行記三巻を撰し、世に行はる⁽⁸⁾。

つまり、『千金方』が引用する「道人深師増損腎瀝湯」とは、もとは姚僧垣『集驗方』に引用された『僧深方』の一方であると考えられる。この一方は『僧深方』そのものからの引用ではなく、姚僧垣『集驗方』からの孫引きであり、『集驗方』の佚文としてあつかうべき方である。確かに、僧深が『僧深方』に自ら「道人深師」と名乗る方を立てるとは考えにくい。姚僧垣は、『僧深方』の「増損腎瀝湯」を脚氣に苦しむ湘東王時代の梁元帝に試して効果があった事実を、備考として『集驗方』に書き加えたのである。孫思邈による改変がないとすれば、この引用から、姚僧垣の時代には僧深は「道人深師」と呼ばれていたことになる。そうすると「深師」の名の使用は南北朝時代に遡る。ただし、僧深の名を「道人深師」と孫思邈が書き換えた可能性も残ってはいる。

なお、当初『外台秘要方』からの輯佚のみに止める目論見であっ

たが、出典を『僧深方』と明記せず、後代の医書が引用している例が散見されるので、今本の張機（仲景 三世紀頃）『傷寒論』『金匱要略』、葛洪（二八三？～三四三）・陶弘景（四五六～五三六）『肘後備急方』、『千金方』『千金翼方』の各方を博搜して、『僧深方』と関連する方を出来るだけ集めた。この作業により、六朝期の医書『僧深方』が唐代にどのように継承され、またどの部分がオミットされたかがわかるようになっていく。

すでに『外台秘要方』四十巻すべてについて、『僧深方』の輯佚と今本の諸医書との照合が終わっているが、何分にも分量が多いので、分割することとした。

今回は全体の四分の一に当たる『外台秘要方』八巻までを扱っている。

今後の作業としては、『外台秘要方』からの『僧深方』輯佚全体を示した後、若干の佚文を拾い集めて、『僧深方』復元を果したい。

注

- (1) 孫思邈の生卒年は『四庫全書』総目提要卷一〇三 子部十三 医家類一『千金要方』条の説に従う。
- (2) 小曾戸洋『中国医学古典と日本——書書誌と伝承——』塙書房 二〇〇五年第二版 四四〇～四四一頁
- (3) 『枳園叢放』『崔氏方纂録深師放』

据此、則孫真人尊之曰深師、崔氏從之、王齋亦隨而襲之。如其書名則宜

曰僧深方。無有名深師方者也。

なお、当該文献の存在については、北里大学の小曾戸洋教授から御教示を受け、わざわざ国会図書館蔵本の複写を送って頂いた。この場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

(4) 道人深師增損腎瀝湯、：湘東王至江州、王在嶺南、病悉如此、極困

篤。余作此湯令服。即得力、病似此者、服無不差、隨宜增損之方。

(5) 『梁書』元帝紀

世祖孝元皇帝諱繹、字世誠、小字七符、高祖第七子也。天監七年八月丁

巳生。十三年、封湘東郡王、邑二千戶。：中大通六年、出為使持節・都督

江州諸軍事・鎮南將軍・江州刺史。：太清元年、徙為使持節・都督荆雍湘

司郢寧梁南北秦九州諸軍事・鎮西將軍・荊州刺史。

(6) 『周書』卷四十七 藝術傳 序

許爽・姚僧垣方藥特妙。

(7) 『周書』卷四十七 藝術傳 姚僧垣傳

姚僧垣字法衡、吳興武康人、吳太常信之八世孫也。曾祖郢、宋員外散騎

常侍・五城侯。父菩提、梁高平令。嘗嬰疾歷年、乃留心醫藥。梁武帝

性又

好之、毎召菩提討論方術、言多會意、由是頗禮之。…年二十四、即傳家業。

…大同九年、還領殿中醫師。…十一年、轉領太醫正。…太清元年、轉鎮西

湘東王府中記室參軍。

(8) 『周書』 同前

僧坦醫術高妙、為當世所推。前後驗、不可勝記、聲譽既盛、遠聞邊服。至於諸蕃外域、咸請託之。僧坦乃搜採奇異、參校徵者、為集驗方十二卷、又撰行記三卷、行於世。

なお、本稿は二〇一〇年十月に投稿したが、掲載が一年後の次々号に延期された関係で、後に発表した論考と重複する部分がある。その旨、お断りしておく。

本稿は、科学研究費補助金H20(萌芽研究) H21～22(挑戦的萌芽研究) 『医心方』所引の仏教関連書籍から見る東アジアの仏教医学伝播の諸相(研究課題番号…20652004)の助成による研究の一部である。

凡例

唐・王燾『外臺祕要方』の排列に従い、『外臺祕要方』所引僧深方および『醫心方』所引僧深方の本文並びに他方に言及される僧深方をまとめた。

底本はそれぞれ最善本とされる『外臺祕要方』は宋版景印本(東洋医学叢書本)、『傷寒論』は趙開美本、『金匱要略』は元・鄧珍本、『肘後備急方』は明・萬曆本、『千金方』は宋版景印本(東洋医学叢書本)、『千金翼方』

は日本景印元大徳本、『醫心方』は安政刊本を用いた。

用いられる記号は

◎は『外臺祕要方』所引僧深方

★は『外臺祕要方』所引の他方で僧深方に言及するか、内容が僧深方と同じもしくは類似の方

☆は今本の『傷寒論』『金匱要略』『肘後備急方』『千金方』『千金翼方』で、僧深方に言及するか、内容が僧深方と同じもしくは類似の方

をそれぞれ示す。

排列は、『外臺祕要方』所引僧深方、『外臺祕要方』所引他方、今本『傷寒論』『金匱要略』『肘後備急方』『千金方』『千金翼方』の順とする。

『僧深方』本文が『外臺祕要方』にも『醫心方』にもなく、『外臺祕要方』所引他方が『僧深方』に言及する場合は、それを最初に立て、次いで今本の他方の同一方または類似方を挙げる。

方中、重要と思われる固有名詞には傍線を付し、方薬名はゴチック体で示した。同名異薬が大量に存在するので、同じ薬名であったとしても、処方それぞれ異なることが多い。

『外臺祕要方』巻一

■諸論傷寒八家合一十六首

(華佗曰) 病有虚煩熱者與傷寒相似、然不惡寒、身不疼痛、故知非傷寒也、不可發汗。頭不痛、脈不緊數、故知非裏實也、不可下。如此内外皆不可攻、而師強攻之、必遂損竭多死矣。諸虚煩但當行竹葉湯。(竹葉湯在第三卷、天行虚煩部中、出文仲方是也。) 若嘔者與橘皮湯、一劑不愈者、可重與也。(橘皮湯在第二卷、傷寒嘔噦部中、四味者是也、出於深師方。) 此法官泰數用甚效、

傷寒後虛煩，亦宜服此湯。（仲景·千金方同）

■深師方四首

◎深師、療傷寒，一日至三日，應汗者作此湯方。

葛根（半斤） 烏梅（十四枚） 葱白（一握） 豉（一升，綿裹）

右四味、切，以水九升煮。取三升，分爲三服。初一服便厚覆取汗，汗出粉之。

◎又（第二）麻黃解肌湯、療傷寒三四日、煩疼不解者方。

麻黃（三兩、去節） 甘草（二兩、炙） 杏仁（七十枚、去皮尖、熬） 桂心（二兩）

右四味、切，以水九升，先煮麻黃，減二升，掠去沫，乃內諸藥合煮。取二升半，絞去滓，分服八合，以汗出爲度。

忌海藻、菘菜、生葱。（本仲景麻黃湯、千金翼并同）

☆『傷寒論』卷三 辨太陽病脈證并治中第六。

太陽病、頭痛發熱、身疼腰痛、骨節疼痛、惡風無汗而喘者、麻黃湯主之。

麻黃湯方

麻黃 三兩 去節 桂枝 二兩 去皮 甘草 一兩 炙 杏仁 七十箇 去皮尖

右四味、以水九升，先煮麻黃，減二升，去上沫，內諸藥煮。取二升半，去滓，溫服八合，覆取微似汗。

不須啜粥，餘如桂枝法將息。

☆『千金翼方』卷二十二 解石及寒食散并下石第四（論一首方六十九首）

麻黃湯、治石發困不可解者方

麻黃（貳兩、去節） 梔子（拾肆枚、擘） 香豉（壹升） 甘草（壹兩、炙）。

右肆味、咀，以酒伍升漬一宿，加水二升煮。取三升一合，分三服。

忌如藥法。

◎又（第三）黃芩湯、療傷寒六七日、發汗不解、嘔逆下利、小便不利、胸脅痞滿、微熱而煩方。

黃芩 桂心（各三兩） 茯苓（四兩） 前胡（八兩） 半夏（半升、洗）

右五味、切，以水一斗二升煮。取六升，分爲六服，日三服，夜三服，間食生薑粥，投取小便利爲度。

忌羊肉、鵠、生葱、酢物。

◎又（第四）石膏湯、療傷寒病已八九日、三焦熱、其脈滑數、昏憤、身體壯熱、沉重拘攣。或時呼呻而已攻內、體猶沈重拘攣、由表未解。今直用解毒湯，則變急不差。直用汗藥，則毒因加劇。而方無表裏療者、意思以三黃湯以救其內、有所增加以解其外、故名石膏湯方。

石膏 黃連 黃藥 黃芩（各二兩） 香豉（一升、綿裹） 梔子（十枚、擘）

麻黃（三兩、去節） 右七味、切，以水一斗，煮。取三升，分爲三服，一日併服出汗。初服一劑、小汗，其後更合一劑、分兩日服、常令微汗出、拘攣煩憤即差、得數行利、心開令語、毒折也。

忌豬肉、冷水。

出第十四卷中。

■千金翼方一十三首

★千金翼方、又療傷寒五六日大下之後、身熱不去、心中結痛、此爲未解、梔子豉湯方。（醫心方）卷十一 治利後虛煩方 第三十八所引僧深方之類似）

肥梔子（十四枚、擘） 香豉（四合、綿裹）

右二味、以水四升，先煮梔子，取二升半，去滓，內豉，更煮取一升半，去滓、

溫分再服。

若一服得吐、餘更勿服之。

若嘔者、用後梔子加生薑湯。

〔傷寒論、備急〕同。〔傷寒兼療不得眠。〕

☆〔傷寒論〕卷五 辨陽明病脈證并治第八

陽明病、脈浮而緊、咽燥口苦、腹滿而喘、發熱汗出、不惡寒反惡熱、身重、若發汗則躁、心憤憤反讞語、若加溫鍼、必怵惕煩躁不得眠、若下之、則胃中空虛、客氣動膈、心中懊憹、舌上胎者、**梔子豉湯**主之、方十一。

梔子豉湯方、

肥梔子十四枚 擘 香豉四合 綿裹

右二味、以水四升煮梔子、取二升半、去滓、內豉、更煮取一升半、去滓、分二服、溫進一服、得快吐者、止後服、

☆〔金匱要略〕卷十七 嘔吐噦下利病脈證治第十七

下利後更煩、按之心下濡者、爲虛煩也、**梔子豉湯**主之。

梔子豉湯方、

梔子十四枚 香豉四合 絹裹

右二味、以水四升、先煮梔子、得二升半、內豉煮。取一升半、去滓、分二服、溫進一服、得吐則止。

☆〔千金方〕卷九 發汗吐下後第九〔脈證七條方十七首灸法一首〕

發汗若下後、煩熱、胸中窒、氣逆搶心者、**梔子湯**方。

梔子（十四枚） 香豉（四合綿裹）。

右二味、以水四升煮梔子、取二升半、內豉煮取一升半、分二服溫進。一服、得快吐、止後服。

☆〔千金翼方〕卷九 陽明病狀第八〔柒拾伍證方壹拾壹首〕

又煩躁不得眠、下之、胃中空虛客氣動膈、心中懊憹、舌上胎者、**梔子湯**主之。

陽明病、下之其外有熱、手足溫、不結胸、心中懊憹、若飢不能食、但頭汗出、

梔子湯主之方。

梔子（拾肆枚、擘）、香豉（肆、各綿裹）

右貳味、以水肆升、先煮梔子取貳升半、內豉煮取壹升半、去滓、分再服溫進、壹服得快吐止後服。

★又療傷寒五六日、中風、往來寒熱、胸脅苦滿、嘿嘿不欲飲食、心煩喜嘔、或胸中煩而不嘔、或渴、或腹中痛、或脅下痞堅、或心下卒悸、小便不利、或不渴、外有微熱或咳、**小柴胡湯**方（第六）。

柴胡（八兩） 半夏（洗、半斤） 生薑 黃芩 人參 甘草（炙、各三兩）

大棗（十二枚、擘）

右七味、切、以水一斗二升煮。取六升、去滓、更煎取三升、溫服一升、日三服。

但胸中煩而不嘔者、去半夏、人參、加枳實一枚。

若渴者、去半夏、加人參、合前成四兩半、枳實根四兩。

若腹中痛者、去黃芩、加芍藥三兩。

若脅下痞堅者、去大棗、加牡蠣六兩。

若心下卒悸、小便不利者、去黃芩、加茯苓四兩。

若不渴、外有微熱者、去人參、加桂心三兩、溫覆取微汗。

若咳者、去人參、大棗、生薑、加五味子半升、乾薑二兩。

忌羊肉、錫、海藻、菘菜。

崔氏、深師同。

☆〔千金翼方〕卷九 太陽病用**柴胡湯**法第四〔壹拾伍證方柒首〕

傷寒五六日、中風往來寒熱、胸脅苦滿嘿嘿不欲飲食、心煩喜嘔、或胸中煩

而不嘔、或渴、或腹中痛、或脅下痞堅、或心下悸小便不利、或不渴外有微熱或欬、**小柴胡湯**主之。

柴胡（八兩） 黃芩 人參 甘草（灸） 生薑（各三兩切） 半夏（半升、

洗） 大棗（拾貳枚、擘）

右柒味、以水壹斗貳升煮。取陸升、去滓、再煎溫服、壹升、日參。

若胸中煩不嘔者、去半夏人參、加枳椇實壹枚。

渴者、去半夏、加人參合前成四兩半。

腹中痛者、去黃芩、加芍藥三兩。

脅下痞堅者、去大棗、加牡蠣陸兩。

心下悸小便不利者、去黃芩、加茯苓肆兩。

不渴外有微熱者、去人參、加桂參兩、溫覆微發其汗。

欬者、去人參大棗生薑、加五味子半升、乾薑貳兩。

■崔氏方一十五首

★又（第十四）、凡少陰病寒多表無熱、但苦煩憤、默默而極不欲見光、有時腹痛、其脈沈細而不喜渴、經日不差。舊用四順湯、余怪其熱、不甚用也。

若少陰病下利而體猶有熱者、可服**黃連龍骨湯**。若已十餘日而下利不止、手足微冷、及無熱候者、可服**增損四順湯方**。（**黃連龍骨湯**、見第三卷天行中）

甘草（二兩、炙） 人參（二兩） 龍骨（二兩） 黃連 乾薑（各一兩）

附子（中形者一枚、炮、去黑皮）

右六味、切、以水六升煮。取二升、分再服、不差復作、甚良。

若下而腹痛、加當歸二兩。

嘔者、加橘皮一兩。

忌海藻、菘菜、豬肉、冷水。

■古今錄驗方八首

★又**麥奴丸**、療傷寒五六日以上不解、熱在胸中、口噤不能言、唯欲飲水、為敗傷寒、醫所不療方（第四）。

麻黃（去節） 大黃 芒硝 灶突中墨 黃芩（各二分） 麥奴 梁上塵

釜底墨（各二分）

右八味、搗篩、蜜和如彈丸、以新汲水五合研一丸。病者渴欲飲水、但極飲冷水、不節升數、須臾當寒、寒訖汗出則愈。若日移五丈不汗、依前法服一丸、

以微利止、藥勢盡乃食、當冷食以除藥勢。一名「**黑奴丸**」、小麥黑勃名為麥奴是也。

肘後、胡洽、小品、刪繁、張文仲、深師、范汪、經心錄、廣濟並同。

☆「肘後備急方」卷二 治傷寒時氣溫病方第十三

黑奴丸、胡洽·短劇同、一名**水解丸**、又一方加小麥黑一兩、名為**麥奴丸**、

支同此注。

麻黃二兩 大黃二兩 黃芩一兩 芒硝一兩 釜底墨一兩 灶突墨二兩

梁上塵二兩

搗蜜丸如彈丸、新汲水五合、末一丸頓服之。

若渴但與水、須臾寒、寒了汗出、便解。日移五赤、不覺、更服一丸、此治

五六日。

胸中大熱、口噤、名為壞病、不可醫治、用此**黑奴丸**。

「外臺秘要方」卷二

■傷寒嘔噦方一十四首

◎深師、療傷寒病嘔不止、**甘草湯方**。兼主天行。

甘草（三兩、炙） 橘皮（三兩）

右二味、切、以水五升、煮。取一升、去滓、頓服之、日三四服、取差。忌海藻、菘菜。

崔氏同。

◎又（第二）**半夏散方**。

半夏（洗、焙乾）

右一味、末之、生薑湯和服一錢匕。忌羊肉、錫等。

◎又（第三）**赤蘇湯方**。

赤蘇（一把）

右一味、水三升、煮取一升、去滓、稍稍飲之。

肘後同。

☆『肘後備急方』卷二 治傷寒時氣溫病方第十三

治傷寒嘔不止方、又方（第三）、

赤蘇一把

水三升煮。取二升、稍稍飲。

◎又（第四）**乾薑丸方**。

乾薑（六分） 附子（四分、炮）

右二味、搗、篩、以苦酒丸如梧子、服三丸、日三服、酒、飲下皆得。忌豬肉。

肘後同。

☆『肘後備急方』卷二 治傷寒時氣溫病方第十三

治傷寒嘔不止方、又方（第四）、

干姜六分 附子四分末

苦酒丸如梧子大、服三丸、日三服。

◎又（第五）療傷寒嘔、**甘竹筍湯方**。

甘竹筍（四兩） 生白米（一升）

右二味、以水八升煮之、取米熟湯成、去滓、分服、徐徐服。療風熱、氣嘔、甚神驗、諸嘔亦佳。

◎又（第六）療傷寒嘔、噦、胸滿虛煩不安、**大橘皮湯方**。

橘皮（二兩） 甘草（二兩、炙） 生薑（四兩） 人參（二兩）

右四味、切、以水六升煮。取二升、去滓、分三服。

忌海藻、菘菜。

並出第十四卷中。

★千金翼、乾嘔吐涎沫而頭痛、**茱萸湯**主之方。〔醫心方〕卷九 治乾嘔方第十七所引僧深方、**茱萸湯**、治乾嘔吐涎沫、煩心頭痛方に類似

黃茱萸（一升、炒） 大棗（十二枚、擘） 生薑（六兩、切） 人參（三兩、細剉）

右四味、以水五升煮、取二升、去滓、分服七合、日三。

仲景同。

出第十卷中。

（此張仲景傷寒論方）

☆『千金翼方』卷十 厥陰病狀第三（伍拾陸證方柒首）

乾嘔吐涎沫而復頭痛、**吳茱萸湯**主之。（方見陽明門）

☆『千金翼方』卷九 陽明病狀第八（柒拾伍證方壹拾壹首）

食穀而嘔者屬陽明、**茱萸湯**主之方

吳茱萸（壹升） 人參（參兩） 生薑（陸兩、切） 大棗（拾貳枚、擘）

右肆味、以水五升煮、取貳升、去滓、溫服七合、日參服。

得湯反劇者、屬上焦也。

☆『傷寒論』卷六 辨厥陰病脈證治第十二

乾嘔吐涎沫、頭痛者、**吳茱萸湯**主之、方十八。

吳茱萸湯方

吳茱萸一升 湯洗七遍 人參三兩 大棗十二枚、擘 生薑六兩、切

右四味、以水七升煮。取二升、去滓、溫服七合、日三服。

☆『金匱要略』卷十七 嘔吐噦下利病脈證治第十七

嘔而胸滿者、**茱萸湯**主之。

茱萸湯方、

吳茱萸一升 人參三兩 生薑六兩 大棗十二枚

右四味、以水五升煮。取三升、溫服七合、日三服。

乾嘔吐涎沫、頭痛者、**茱萸湯**主之。

■傷寒咽喉痛方八首

◎深師貼喉膏、療傷寒舌強喉痛方。

蜜（一升） 甘草（四兩） 猪膏（半斤）

右三味、微火煎甘草、猪膏、令數沸、去滓、乃內蜜、溫令銷相得、如棗大

含化、稍稍咽之。

忌海藻、菘菜。

出第十四卷中。

■傷寒煩渴方九首

◎深師黃芩人參湯、療傷寒吐下後、內外有熱、煩渴不安方。

黃芩 人參 甘草 桂心 生薑（各二兩） 大棗（十五枚、擘破）

右六味、切、以水八升、煮。取三升、分三服、徐徐服。

忌菘菜、海藻、生葱等物。

◎又（第二）療傷寒、除熱止渴、欲飲水、**栝蒌根湯**方。

黃芩（三兩） 人參（二兩） 桂心（二兩） 大黃（二兩） 栝蒌根（三兩）

芒硝（二兩） 甘草（二兩、炙）

右七味、切、以水八升、煮。取三升、去滓、飲一升、須臾當下。不下、復

飲一升、得下。止、勿復飲。湯藥力勢歇、乃可食糜耳。

一方用生薑二兩。

忌海藻、菘菜、生葱、油膩等物。

◎又（第三）療傷寒下後、除熱止渴、**五味麥門冬湯**方。

麥門冬（去心） 五味子 人參甘草（炙） 石膏（碎、各二兩）

右五味、搗、篩、三指撮、水一升二合、煮。令沸、得四合、盡服。

忌海藻、菘菜。

並出第十四卷中。

■傷寒癰實及宿食不消方二首

◎深師駛鼓丸、療傷寒留飲、宿食不消。一名『續命丸』方。

黃芩（五兩） 大黃（五兩） 梔子仁（二十六枚、大） 黃連（五兩、去毛）

鼓（一升、熬） 甘遂（三兩、太山者） 麻黃（五兩、去節） 芒硝（二兩）

巴豆（一百枚、去皮及心、熬、研）

右九味、搗、篩、白蜜和、丸如梧子、服三丸、以吐下爲度。若不吐利加二丸。

一本有杏仁七十枚。

范汪同。

忌猪肉、冷水、蘆筍等。

出第十四卷中。

■傷寒攻目生瘡兼赤白翳方六首

★肘後、療傷寒大病後、熱毒攻目方。(「醫心方」卷五 治目膚翳方 第十六所引僧深方、治目白翳方第二及び同卷十四 治傷寒後目病方 第五一所引葛氏方、治毒病後毒攻目方に類似)
煮蜂房以洗之、日六七度。張文仲同。

☆今本「肘後備急方」闕

■傷寒口瘡方二首

◎深師、療傷寒熱病口瘡、黃蘗蜜方。

黃蘗(削去上皮、取裏好處、薄斜削。)

右一味、以崖蜜半斤極消者、以漬藥一宿、唯欲令濃、含其汁、良久吐之、更復如前。若胸中熱有瘡時、飲三五合尤良。

◎又(第二)療傷寒口瘡爛者、升麻湯方。

升麻(二兩) 甘草(二兩、炙) 竹葉(切、五合) 麥門冬(三分、去心)

牡丹(二分) 乾棗(二十枚、擘)

右六味、切、以水四升、煮。取一升半、去滓、分五服、含、稍稍咽之為度。忌海藻、菘菜、胡荽等。

並出第十四卷中。

■傷寒手足欲脫疼痛方七首

★范汪、療傷寒熱病、手足腫欲脫方。

生牛肉裹之、腫消痛止。

出第三十卷中。

深師同。

★崔氏、療傷寒手足熱疼欲脫方。

取羊屎煮汁以淋之、差止。亦療時疾、陰囊及莖腫、亦可煮黃蘗洗之。
肘後、深師、集驗、千金、備急、並同。
出第一卷中。

☆「肘後備急方」卷二 治傷寒時氣溫病方第十三

治毒攻手足腫、疼痛欲斷方、又方(第八)、

煮馬屎若羊屎汁漬。

☆「千金方」卷第十(傷寒下) 傷寒雜治第一(論一首方五十一首灸法一首)

治毒熱攻手足、赤腫焮熱疼痛欲脫方。

煮馬屎若羊屎汁漬之、日三度。

又方(第二)、

猪膏和羊屎塗之、亦佳。

傷寒不得眠方四首

◎深師、酸棗湯、療傷寒及吐下後、心煩之氣、晝夜不眠方。

酸棗仁(四升) 麥門冬(一升、去心) 甘草(二兩、炙) 蜚母(二兩、

知母也) 茯苓(二兩) 芎藭(二兩) 乾薑(三兩)

右七味、切、以水一斗六升、煮酸棗、取一斗、去棗肉藥、煮。取三升、去滓、

溫分三服。

忌海藻、菘菜、大醋。

出第十四卷中。

傷寒小便利方九首

傷寒小便利方九首

★**仲景傷寒論**、少陰病、二三日不已、至四五日、腹痛、小便不利、四肢

沈重疼痛、自下利者、此為有水氣。或咳、或小便自利、或下利、或嘔者、**真武湯**主之方。

茯苓（三兩） 白芍藥（三兩） 附子（一枚、炮去皮破八片） 白朮（三兩）

生薑（三兩、去皮）

右五味、切、以水八升、煮取三升、去滓、溫服七合、日三。

若咳者、加五味子半升、細辛一兩、乾薑一兩。

若小便自利者、去茯苓。

若下利者、去芍藥、加乾薑二兩。

嘔者、去附子、加生薑、足前成半斤。

忌酢、猪肉、桃李、雀肉等。

出第六卷中。

深師同。兼主天行大效。

☆『傷寒論』卷六 辨少陰病脈證并治第十一

少陰病、二三日不已、至四五日、腹痛、小便不利、四肢沈重疼痛、自下利者、此為有水氣、其人或欬、或小便利、或下利、或嘔者、**真武湯**主之、方十五。

真武湯方

茯苓三兩 芍藥三兩 白朮二兩 生薑三兩 切 附子一枚 炮 去皮

破八片

右五味、以水八升煮。取三升、去滓、溫服七合、日三服。

若欬者、加五味子半升、細辛一兩、乾薑一兩。

若小便利者、去茯苓。

若下利者、去芍藥、加乾薑二兩。

若嘔者、去附子、加生薑、足前為半斤。

■傷寒下痢及膿血黃赤方一十六首

☆『傷寒論』卷六 辨厥陰病脈證治第十二（醫心方）卷十一 治不伏水土利方 第三十四 僧深方、治諸下利、胡虜之人不習食穀下者方用（類似）

熱利下重者、**白頭翁湯**主之、方十二。

白頭翁湯方、

白頭翁二兩 黃蘗三兩 黃連三兩 秦皮三兩、

右四味、以水七升、煮取二升、去滓、溫服一升、不愈更服一升。

☆『金匱要略』卷十七 嘔吐噦下利病脈證治第十七

熱利下重者、**白頭翁湯**主之。

白頭翁湯方、

白頭翁 二兩 黃連 黃栢 秦皮 各三兩

右四味、以水七升、煮取二升、去滓、溫服一升。不愈更服。

★千金翼、熱利下重、**白頭翁湯**主之方。

白頭翁（二兩） 黃蘗（三兩） 黃連（三兩） 秦皮（三兩、切）

右四味、切、以水七升、煮取二升、去滓、分服一升、不愈更服。

忌猪肉、冷水。

范汪同。

出第十卷中。

（此張仲景傷寒論方。）

☆『千金翼方』卷十 厥陰病狀第三（伍拾陸證方柒首）

熱利下重、**白頭翁湯**主之。下利欲飲水者為有熱、**白頭翁湯**主之方

白頭翁（貳兩） 黃蘗（參兩） 黃連（參兩） 秦皮（參兩）

右肆味、以水柒升煮。取貳升、去滓、溫服壹升。不差、更服。

■傷寒蠶瘡方一十首

◎深師、療蠶食下部、桃皮湯方。

桃皮(二兩) 槐子(二兩) 艾(二兩) 大棗(二十枚、擘。一方用黃連)

右四味、切、以水五升、煮。取三升、去滓、溫分三服之。

◎又(第二)療蠶蟲食下部方。

以泥作罌、以竹筒如指所、橫穿罌肚、筒一頭內下孔中、內如雞子艾燒之、人就罌口吹之、常令艾燒、強人可益艾、甚良。

千金同。

☆『千金方』卷十八(大腸腑) 九蟲第七(論三首、方四十五首)

治熱病蝨毒、令人喜寐、不知痛處、面赤如醉、下利膿血、當數視其人下部大小之孔稷稷然、(一云搜搜然)、赤則蠶瘡者也、劇因殺人、見人肝肺、服藥不差、可熏之方。

以泥作小罌令受一升、竹筒一枚如指大、以竹筒一頭橫穿入罌腹中、一頭入人穀道中淺、入可取熟艾如雞子大、著罌中然之於罌口吹煙、令人入腹、艾盡乃止。

大人可益艾、小兒減之、羸者不得多、多亦害人。

日再熏、不過三作、蟲則死下斷。

亦可末燒雄黃、如此熏之。

◎又(第三)龍骨湯、治傷寒已八九日至十餘日、大煩、溫熱盛、而三焦有瘡置者多下、或張口吐舌呵呬、目爛口鼻生瘡、吟語不識人、宜服此湯。除熱毒止痢神方。

龍骨(半斤、碎)

右一味、以水一斗、煮。取四升、沈之井底令冷、服五合、餘漸漸進之、恣

意如飲、尤宜老少、無味殆如飲水、亦斷下。

文仲、備急、千金等同。

☆『千金方』卷十五 脾臟 小兒痢第十(方三十七首)
治小兒暴痢方。又方(第二)、

燒鯉魚骨、末、服之。一方作龍骨。

◎又(第四)療傷寒及諸病之後、內有瘡出下部、煩者、黃連犀角湯方。

黃連(二兩、去毛) 烏梅(十四枚、擘) 犀角(三兩、屑) 青木香(半兩)
右四味、切、以水五升、煮。取一升半、分再服。

忌豬肉、冷水等。

並出第十四卷。

★張文仲、療傷寒兼蠶瘡。王叔和云、其候口唇皆生瘡、唾血、上唇內有瘡如粟者、則心中懊惱痛、如此則此蟲在上、乃食五臟。若下唇內生瘡、其人喜眠者、此蟲在下、食下部方。

取雞子一枚、扣頭出白、與漆一合熟和、令調如漆、還內殼中、仰吞之、食頃、或半日、或下蟲、或吐蟲、劇者再服乃盡、熱除病愈。凡得熱病、腹內熱、食少、三蟲行作求食、食人五臟及下部、人不能知、可服此藥、不爾蠶蟲殺人。

集驗、深師、肘後同。

☆『肘後備急方』卷二 治傷寒時氣溫病方第十三

若病患齒無色、舌上白、或喜睡眠、憤憤不知痛痒處、或下痢、急治下部、不曉此者、但攻其上、不以下為意。下部生虫、虫食其肛、肛爛見五臟便死、治之方。

取雞子白、納漆、合攪、還納殼中、仰頭吞之、當吐虫則愈。

■傷寒陰陽易方八首

◎深師、療婦人得溫病、雖差平復、未滿一百日、不可與交合、交合為陰易之病、病必拘急手足拳皆死。丈夫病以易婦人、名為陽易。速當療之可差、滿四日、不可療也、宜令服此藥方。

乾薑（四兩）

右一味、搗末、湯和、一頓服、溫覆汗出得解止、手足伸遂愈。

范汪同。

出第十四卷中。

■傷寒勞復食復方二十五首

◎深師、療勞復、大青湯方。

大青（四兩） 甘草（二兩、炙） 阿膠（二兩、炙） 香豉（二兩）

右四味、切、以水一斗煮。取三升、去滓、溫服一升、日五六。欲盡復作、

常使有湯、渴便飲、無毒、除熱、止吐下。傷寒一二日、上至十數日困篤、

發汗熱不解、吐下後熱不除、止下痢甚良。先煮大青·甘草取四升、去滓、

內膠·豉、膠消盡便漉去、勿令豉壞、當預漬膠令釋也。

忌葱菜、海藻。

集驗、肘後、千金同。

☆『肘後備急方』卷二 治傷寒時氣溫病方第十三

大青湯方、

大青四兩 甘草三兩 膠二兩 豉八合 赤石脂三兩

以水一斗煮。取三升、分三服、盡更作。日夜兩劑、愈。

☆『千金方』卷九 傷寒上 發汗吐下後第九（脈證七條、方十七首、灸

法一首）

傷寒熱病十日已上、發汗不解、及吐下後諸熱不除、及下利不止斑出、皆治

之大青湯方。

大青（四兩） 甘草 阿膠（各二兩） 豆豉（二升）。

右四味、咬咀、以水八升煮。取三升、去滓、煮三沸去豉、內阿膠令烊、頓

服一升、日三服。

欲盡復作、常使有餘、渴者當飲、但除熱、止吐下。無毒。

（深師治勞復、肘後有赤石脂三兩、胡洽·集驗同）

◎又方（第二）、

取雞子空殼碎之、熬令黃黑、搗篩、熱湯和一合服之、溫臥取汗愈、雞子殼悉服之。

肘後、崔氏同。

☆『肘後備急方』卷二 治時氣病起諸勞復方第十四

又方（第六）、取伏雞子殼碎之、熬令黃黑、細末、熱湯服一合、溫覆取汗。

◎又方（第三）、

取馬糞燒搗為散、冷酒服方寸匕、良。三炊頃便驗、神良。

◎又（第四）療傷寒差後勞復、葵子湯方。

葵子（二升） 梁米（二升）

右二味、合煮作薄粥飲之、多多為佳、取汗立差。

並出第十四卷中。

★古今錄驗、梔子湯、療傷寒勞復方。

梔子（十四枚、擘） 麻黃（二兩、去節） 大黃（二兩） 豉（二升、綿裹）

右四味、切、以水七升、煮。取二升、分為三服。

深師、肘後同。

☆『肘後備急方』卷二 治時氣病起諸勞復方第十四

治篤病新起早勞、及食飲多致欲死方。又方（第七）、

大黃 麻黃 各二兩 梔子仁 十四枚 豉 一升
水五升煮。取三升，分再服，當小汗及下痢

『外臺秘要方』卷三

■天行病發汗等方四十二首

★千金、又凝雪湯、療天行毒病七八日、熱積胸中、煩亂欲死、起死擒湯方（第二）。

芫花（一升）

右一味、以水三升、煮。取一升半、漬故布薄胸上。

不過再三薄、熱則除、當溫四肢護厥逆也。

張文仲、備急、古今錄驗、深師、范汪並同。

出第十卷中。

（程本有、通按、擒音臙折也、推也、又摺也、以故布摺方漬而答胸上也。）

☆『千金方』卷第十（傷寒下） 傷寒雜治第一（論一首、方五十一首、灸法一首）

凝雪湯、治時行毒病七八日、熱積聚胸中、煩亂欲死、起死人搗湯方。

芫花 一升

以水三升煮。取一升半、漬故布薄胸上、不過三薄、熱即除。

當溫煖四肢、護厥逆也。

★千金翼、療天行脈浮緊、無汗而發熱、其身疼痛、八九日不解、其表證續在、此當發其汗、服藥已微除、發煩目瞑、劇者必衄、衄乃解、所以然者、陽氣重故也。宜服麻黃湯方。（千金翼不療天行）

麻黃（三兩、去節） 桂心（二兩） 甘草（二兩、炙） 杏仁（七十枚、去皮兩仁）

右四味、切、以水九升、先煎麻黃減二升、去上沫、內諸藥、煮。取二升半、分服八合、取汗、不須飲粥、投此湯易得汗。

忌棗菜、海藻、生蔥。

深師同。

出第九卷中。（此張仲景傷寒論方。）

☆『傷寒論』卷三 辨太陽病脈證并治中第六

太陽病、脈浮緊、無汗發熱、身疼痛、八九日不解。表證仍在、此當發其汗、服藥已微除。其人發煩目瞑、劇者必衄、衄乃解。所以然者、陽氣重故也。

麻黃湯主之、十六。

☆『傷寒論』卷三 辨太陽病脈證并治中第六。

太陽病、頭痛發熱、身疼腰痛、骨節疼痛、惡風無汗而喘者、麻黃湯主之、方五。

麻黃湯方

麻黃三兩 去節 桂枝二兩 去皮 甘草一兩 炙 杏仁七十箇 去皮尖、

右四味、以水九升、先煮麻黃、減二升、去上沫、內諸藥煮。取二升半、去滓、溫服八合、覆取微似汗。

不須啜粥、餘如桂枝法將息。

☆『千金翼方』卷九 傷寒上 太陽病用麻黃湯法第一（壹拾陸證方肆首）

太陽病脈浮緊、無汗而發熱、其身疼痛、八九日不解、其表證仍在、此當發其汗、服藥微除、其人發煩目瞑增劇者、必衄、衄乃解。所以然者、陽氣重故也。宜麻黃湯。

脈浮而數者可發其汗、宜麻黃湯。

傷寒、脈浮緊、不發其汗、因致衄、宜麻黃湯。

脈浮而緊、浮則為風、緊則為寒、風則傷衛、寒則傷榮、榮衛俱病、骨節煩疼、

可發其汗，宜麻黃湯。

太陽病下之微喘者，外未解故也，宜麻黃湯。（壹云、桂枝湯）

麻黃湯方

麻黃（去節、參兩） 桂枝（貳兩） 甘草（壹兩、炙） 杏仁（柒拾枚、去皮尖兩仁者）

右肆味，以水玖升煮麻黃，減貳升，去上沫，內諸藥煮。取貳升半，去滓，溫服捌合，覆取微似汗，不須啜粥，餘如桂枝法。

★崔氏，又其年時行四五日，大下後或不下，皆患心中結滿，兩脅痞塞，

胸中氣急，厥逆欲絕，心胸高起，手不得近，不過二三日，輒便死歿。諸醫用瀉心湯，余用大小陷胸湯，並不得療。重思此或是下後虛逆，而氣已不理，

而毒復上攻，毒氣相搏，結於胸中，縱不下者，毒已入胃，胃中不通，毒還衝上，復搏於氣，氣毒相激，故致此病，療之當先理其氣，次下諸疾，思與

增損理中丸方（第二）。

人參（二兩） 白朮（二兩） 甘草（二兩、炙） 乾薑（六分、炮） 枳實根（二兩） 枳實（四兩） 茯苓（二兩） 牡蠣（二兩、熬）

右八味末之，以蜜和為丸，服如彈子一丸，熱水下，不歇復服。余時用此效的神速，下喉即折，續復與之，不過服五六丸，胸中豁然矣。用藥之速，未嘗見此。

然渴者當加枳實，不渴除之。下者當加牡蠣，不下勿用。

余因以告領軍韓康伯右衛毛仲祖，光祿王道豫，靈臺郎顧君苗，著作商仲堪諸人，並悉用之，咸歎其應速，于時枳實乃為之貴。難者曰，傷寒熱病中

溫藥，今不解之以冷，而救之以溫，其可論乎。余應之曰，夫今診時行，始於項疆，勅色，次於失眠發熱，中於煩躁思水，終於生瘡下痢，大齊於此耳。

忌海藻、菘菜、酢物、桃李、雀肉等。

深師方同。

■天行喉咽痛方二首

◎深師，療天行毒病，或下不止，喉咽痛，黃連馬通湯方。

小豆（二升） 黃連（二兩、去毛） 馬通汁（三升） 吳茱萸（二兩） 右四味，以馬通汁令煮。取一升，盡服。不差，復作，有效。

忌猪肉、冷水。

出第十四卷中。

■天行衄血方四首

◎深師，療天行毒病，鼻衄是熱毒，血下數升者方。

勿療自差，亦無所苦。亦可取好松煙墨，搗之，以雞子白和丸，丸如梧桐子大，水下，一服十丸。並無所忌。

◎又（第二）黃土湯，療鼻衄，去五藏熱氣結所為，或吐血者方。

當歸 甘草（炙） 芍藥 黃芩 芎藭（各三兩） 桂心（二兩） 生地黃（一斤） 釜月下焦黃土（如雞子一枚，碎，綿裹） 青竹皮（五兩） 右九味，切，以水一斗三升，煮竹皮，減三升，去滓，內諸藥，煮。取三升，分四服。

忌海藻、菘菜、生葱。

◎又方（第三）、

黃芩（四兩） 右一味，切，以水五升，煮。取二升，分三服。亦療婦人漏下血。

◎又（第四）、療脈浮大、鼻中燥，如此必去血，鼻衄方。

灸兩臂中脈取止。取臂脈法，以鼻嗅臂，點其鼻尖所著處是穴，兩臂皆爾。出第十四卷中。

■天行口瘡及口乾苦方四首

◎深師、療天行熱盛、口中生瘡、**酪酥煎丸**。

酪酥（三合） 蜜（三合） 大青（一兩）

右三味，合煎三沸，稍稍傳口，以差為度。

◎又（第二）口瘡方。

取蛇莓五升，搗絞取汁，稍稍飲之。

並出第十四卷中。

■天行狂語方三首

★千金、又**五苓散**，主天行熱病，但狂言煩躁不安，精采言語與人不相當方。

猪苓（二分） 白朮（三分） 澤瀉（五分） 茯苓（三分） 桂心（二分）

右五味搗篩為散，水服方寸匕，日三服，多飲煖水，汗出愈。

忌大醋、生蔥、桃李、雀肉等。

張仲景論、深師同。

出第九卷中。

☆『傷寒論』卷三 辨太陽病脈證并治中第六

太陽病、發汗後、大汗出、胃中乾、煩躁不得眠、欲得飲水者、少少與飲之、令胃氣和則愈、若脈浮、小便不利、微熱消渴者、**五苓散**主之、方三十四。

五苓散方、

猪苓十八銖、去皮 澤瀉一兩六銖 白朮十八銖 茯苓十八銖 桂枝半兩、

去皮、

右五味、搗為散、以白飲和、服方寸匕、日三服、多飲煖水、汗出愈。如法將息。

☆『千金方』卷九 傷寒上 發汗散第四（方十一首）

五苓散、主時行熱病、但狂言煩躁、不安精彩、言語不與人相主當者方。

猪苓 白朮 茯苓（各十八銖） 桂心（十二銖） 澤瀉（三十銖）。

右五味、治下篩、水服方寸匕、日三。多飲水、汗出、即愈。

■天行熱痢及諸痢方四首

◎深師、療天行毒病、酷熱下痢、**七物升麻湯方**。

升麻 當歸 黃連（去毛） 甘草（炙） 芍藥 桂心 黃蘗（各半兩）

右藥切、以水三升煮。取一升、頓服之。

忌海藻、菘菜、猪肉、冷水、生葱等物。

◎又（第二）天行諸下悉主、**黃連湯方**。

黃連（三兩、去毛） 黃蘗（二兩） 當歸（二兩）

右三味、以水六升、煮。取三升、去滓、內蜜一合、微火煎取二升半、分三服、

良驗。

忌猪肉、冷水。

並出第十四卷中。（一方、有龍骨一兩。）

■天行蠶瘡方八首

◎深師、療天行下部瘡爛方。

烏梅（二七枚、去核） 大蒜（二七枚） 屋塵（半升、篩取細者）

右三味、搗、篩為散、苦酒一升、和調於銅器中、煎成丸、作長挺、內下部。
范汪同。

出第十四卷中。

■天行陰陽易方二首

◎深師、療丈夫得婦人陰易之病、若因房室及諸虛勞、少腹堅、絞痛陰縮、困篤欲死方。

炙陰頭一百壯便差、可至三百壯皆愈、良無比、後生子如故、無妨。

范汪同、無所忌。

◎又（第二）療陰陽易病方。

取豚卵二枚、溫令熱酒吞之、則差。

出第十四卷中。

■天行差後禁忌方二首

◎深師說、天行病未復。（強食黃花菜手足稍重、一方云青花）天行病差。（食鯨鱸必變成癩、又食鱧魚肉結氣不化）天行病差。（飲酒合陰陽復必死）天行

病損未滿三月日。（食鱧則復、下血食鹽、致令人四肢不舉）

天行病差。（食諸菜有花者三年肌膚不充）天行病未好時。（食生瓜芥、三月

流腫也）天行病差。（食菜合陰陽復必死、出第十四卷中）

■天行勞復食復方六首

◎深師、竹葉湯、療天行後虛熱牽勞食復、四肢沈重、或一臥一起、氣力吸羸弱方。

竹葉（一把） 小麥（一升） 甘草（一兩、炙） 石膏（二兩、碎） 茯苓（二

兩） 半夏（一升、洗去滑） 前胡（二兩） 知母（二兩） 黃芩（二兩） 人參（二兩） 生薑（四兩） 大棗（二十枚、擘）

右十二味、切、以水一斗二升、煮竹葉、小麥、減四升、去滓、內藥、煮、

取三升、分三服。

忌海藻、菘菜、醋物、羊肉、錫等物。

『外臺秘要方』卷四

■溫病渴方二首

◎深師、療溫毒病及吐下後有餘熱渴、芍藥湯神方。

芍藥（五分） 黃連（四分） 甘草（二分、炙） 黃芩（二兩） 桂心（二兩）

栝樓（二分）

右六味、切、以水五升、煮、取三升、分三服、一日令盡。

忌猪肉、冷水、海藻、崧菜、生葱等。

出十四卷。

■溫病勞復方四首

◎深師、療溫病差愈、食復病、麻黃散方。

麻黃（十分、去節） 大黃（十五分、炙） 附子（一分、炮） 厚朴（二分、

炙） 苦參（六分） 石膏（六分、碎綿裹） 烏頭（六分、炮）

右七味、搗篩、以酒若米汁和、服方寸匕、日三夜二服。

忌猪肉、冷水。

出第十四卷中。

■諸黃方一十三首

★仲景傷寒論、諸黃、猪膏髮煎主之方。

猪膏（八兩） 亂髮（大如雞子一枚）

右二味、內髮膏中煎之、髮消盡研、絞去膏細滓、分二服、病從小便去也。出第十四卷中。

肘後、備急、文仲、千金、古今驗錄、深師、范汪同。

云、大醫校尉史脫家婢再病、胃中乾糞下、便差、神驗。

☆『金匱要略』卷十五 黃疸病脉證并治第十五

諸黃、猪膏髮煎主之、猪膏髮煎方。

猪膏半斤 亂髮如雞子大 三枚、

右二味、和膏中煎之、髮消藥成。分再服、病從小便出。

☆『肘後備急方』卷四 治卒發黃膽諸黃病第三十一

勞疸者、身目皆黃、發熱惡寒、小腹滿急、小便難、由大勞大熱交接、交接後入水所致、治之方。又方（第二）、

亂發如雞子大 猪膏半斤

煎令消盡、分二服。

☆『千金方』卷五 小兒 癰疽瘰癧第八（論一首、方七十二首、灸法一首）

治小兒疥方、又方（第二）、

燒亂髮、灰和臘月猪脂、傅之。

☆『千金方』卷十七 肺臟 飛尸鬼疰第八（論一首方四十五首灸法十二首）

治哭疰方、又方（第二）、

臘月猪脂（二合） 亂髮（二兩）

右二味、煎髮令消烱、服之。蟲死矣。

★崔氏、又療黃兼主心腹方（第二）。

蔓菁子（一大合、揀令淨）

右一味、搗碎熟研、以水一升更和、研濾取汁、可得一大盞、頓服之、少頃

自當轉利、或亦自吐、腹中便寬、亦或得汗、便愈。

備急、文仲、深師同。

並出第一卷中。

■黃疸方十三首

★仲景傷寒論

又黃疸、茵陳蒿五苓散主之方（第二）。

茵陳蒿末（十分） 五苓散（五分）

右二味和、先食、白飲和方寸匕服之、日三。忌大酢、桃李、雀肉、生葱。

深師、范汪同。

☆『金匱要略』卷十五 黃疸病脉證并治第十五

黃疸病、茵陳五苓散主之。茵陳五苓散方、

茵陳蒿末十分 五苓散五分 方見痰飲中、

右二味和、先食飲方寸匕、日三服。

★仲景傷寒論、又五苓散、利小便、治黃疸方（第三）。

猪苓（三分、去皮） 白朮（三分） 茯苓（三分） 澤瀉（五分） 桂心（二分）

右五味、搗、篩、和合、白飲和服一方寸匕、日三。

多飲煖水、以助藥勢、汗出便愈。

並出第十四卷中。

千金、深師、范汪同。

☆『傷寒論』卷二

五苓散方、

猪苓十八銖 去皮 澤瀉一兩六銖 白朮十八銖 茯苓十八銖 桂枝半兩 去皮、

右五味、搗爲散、以白飲和、服方寸匕、日三服。多飲煖水、汗出愈。如法將息。

☆『千金方』卷十 傷寒下 傷寒發黃第五(論一首證五條方三十首灸圖三首)

五苓散、主黃疸利小便方。

猪苓 茯苓 澤瀉 白朮 桂心(各三十銖)。

右五味、搗篩爲散。渴時水服方寸匕極、飲水、即利小便及汗出、愈。(此方與第九卷相重、以分兩不同、故再出之。)

■黃疸遍身方一十一首

★小品、療黃疸、身目皆黃、皮膚麤塵出、三物茵陳蒿湯方。

茵陳蒿(二把) 梔子(二十四枚) 石膏(一斤)

千金方加大黃(三兩)

右三味、以水八升、煮。取二升半、去滓、以猛火燒石膏、令正赤、投湯中沸定取清汁、適寒溫、服一升、自覆令汗出周身遍、以溫粉粉之、則愈。若不汗、更服一升、汗出乃愈也。

深師、古今錄驗、千金翼同。

出第四卷中。

☆『千金翼方』卷十八 雜病上 黃疸第三

黃疸身目皆黃、皮肉麤塵出者方

茵陳(壹把、切) 梔子仁(貳拾肆枚) 石膏(壹斤)

右參味、以水伍升煮貳味、取貳升半、去滓、以猛火燒石膏令赤、投湯中、沸定、服壹升、覆取汗周身以粉粉之、不汗更服。

☆『千金方』卷十 傷寒下 傷寒發黃第五(論一首、證五條、方三十首、灸圖三首)

治傷寒七八日、內實瘀熱結、身黃如橘、小便不利、腹微脹滿、茵陳湯下之方。

茵陳(六兩) 梔子(十四枚) 大黃(三兩)。

右二味、咬咀、以水一斗二升煮茵陳、得五升、去滓、內梔子大黃煎。取三升、分服一升、日三。小便當利如皂莢沫狀、色正赤、當腹減、黃悉隨小便去也。(范注用療穀疸、小品方用石膏一斤)

■療黃方三首

★必效、又療癘黃、汗染衣、涕唾黃者方(第二)。

取蔓菁子搗細末、平旦以井花水和一大匙服之、日再、漸加至兩匙、以知爲度。每夜小便裏浸少許帛、各書記日、色漸退白、則差、不過服五升以來必差。

李潤州傳、極效。

備急、肘後、張文仲、深師同。

出第一卷中。

☆『肘後備急方』卷四 附方『外台秘要』、治黃膽。

又方(第二)、治陰黃、汗染衣、涕唾黃。

取蔓菁子、搗末、平旦以井花水服一匙。日再、加至兩匙、以知爲度、每夜小便、重浸少許帛子、各書記日、色漸退白、則瘥、不過、服五升。

■黃疸小便利及腹滿喘方二首

★仲景傷寒論、黃家腹滿、小便利而赤、身汗出者、表和裏實也、宜下之、

大黃黃藥皮梔子硝石湯方。

大黃（四分） 黃藥（四兩） 梔子（十四枚） 硝石（四兩）

右四味、切、以水六升煮三物、得二升半、去滓、內硝石更煎、取一升、先食頓服盡。

小品、千金翼、深師、范汪並同。

☆『金匱要略』卷十五 黃疸病脈證并治第十五

黃疸腹滿、小便不利而赤、自汗出、此為表和裏實、當下之、宜大黃消石湯。

大黃消石湯方。

大黃 黃藥 消石 各四兩 梔子十五枚、

右四味、以水六升煮。取二升、去滓、內消、更煮取一升、頓服。

☆『千金翼方』卷十八 雜病上 黃疸第三

黃疸腹滿小便不利而赤、自汗出、此為表和裏實、當下之、宜大黃湯方。

大黃 黃藥 消石（各肆兩） 梔子（拾伍枚、擘）

右肆味、咬咀、以水陸升、煮取貳升、去滓、下消石、煮取壹升、先食、頓服之。

☆『千金方』卷十 傷寒下 傷寒發黃第五（論一首證五條方三十首灸圖三首）

黃家腹滿、小便不利而赤、自汗出、此為表和裡實、當下之、大黃黃藥梔子

芒消湯方。

大黃（三兩） 黃藥（四兩） 梔子（十五枚） 芒消（四兩）

右四味、咬咀、以水六升煮。取二升、去滓、內芒消復煎、取一升、先食、頓飲之。

■黃汗方三首

★仲景傷寒論、師曰、黃汗為病、身體腫、發熱、汗出而渴、狀如風水。

汗沾衣者、色正黃如藥汁、脈自沈也。

問曰、從何得之。

師曰、以汗出入汗孔、水從外入而得之、宜黃耆芍藥桂心酒湯主之方。

黃耆（五兩） 芍藥（三兩） 桂心（三兩）

右三味切、以苦酒一升、水七升、和煮取三升、去滓、溫服一升、正當心煩也、至六七日稍稍自除。其心煩不止者、以苦酒阻故也。

一方、用美清醴代酒。忌生葱。

備急、張文仲、千金、古今錄驗、深師、范汪、經心錄同。

☆『金匱要略』卷十四 水氣病脈證并治第十四

問曰、黃汗之為病、身體腫、發熱汗出而渴、狀如風水、汗沾衣、色正黃如藥汁、脈自沈、何從得之。

師曰、以汗出入水中浴、水從汗孔入得之、宜黃耆芍藥桂心酒湯主之。

黃耆芍藥桂心酒湯方、

黃耆五兩 芍藥三兩 桂心三兩、

右三味、以苦酒一升、水七升、相和煮。取三升、溫服一升、當心煩、服至六七日乃解。

若心煩不止者、以苦酒阻故也。

☆『千金方』卷十 傷寒下 傷寒發黃第五（論一首證五條方三十首灸圖三首）

黃汗之為病、身體洪腫發熱、汗出不渴、狀如風水、汗染衣色正黃如藥汁、其脈自沉、從何得之、此病以汗出入水中浴、水從汗孔入得之。

治黃汗、黃耆芍藥桂心酒湯方。

黃耆（五兩） 芍藥（三兩） 桂心（三兩）。

右三味、咬咀、以苦酒一升水七升合煎、取三升、飲二升。當心煩也、至六七日稍稍自除。心煩者、苦酒阻故也。

■女勞疸方四首

★仲景傷寒論、黃家、日晡發熱、而反惡寒、此為「女勞」得之。膀胱急、

小腹滿、身體盡黃、額上反黑、足下熱、因作黑瘰、大便必黑、腹臙脹滿如水狀、大便黑溇者、此女勞之病、非水也。腹滿者難療、**硝石礬石散**主之方。

硝石(熬黃) 礬石(燒令汁盡)

右二味等分、搗細篩、以大麥粥汁和服方寸匕、日三、重衣覆取汗、病隨大便去。小便正黃、大便正黑也。

大麥則須是無皮麥者。

千金方云、硝石二分熬令燥、礬石一分熬令燥、故注之。

肘後、小品、崔氏、文仲、千金、范汪、深師並同。

出第十四卷中。

☆『金匱要略』卷十五 黃疸病脈證并治第十五

黃家、日晡所發熱、而反惡寒、此為女勞得之。膀胱急、少腹滿、身盡黃、

額上黑、足下熱、因作黑瘰。其腹脹如水狀、大便必黑、時溇、此女勞之病、非水也。

腹滿者難治、**消石礬石散**主之。

消石礬石散方。

消石 礬石燒 等分、

右二味、為散、以大麥粥汁、和服方寸匕、日三服、病隨大小便去。小便正黃、大便正黑、是候也、

☆『肘後備急方』卷二 治時氣病起諸勞複方第十四

治交接勞複、陰卵腫、或縮入腹、腹中絞痛或便絕方。又方(第六)、

礬石一分 硝三分

末、以大麥粥清、可方寸匕、三服、熱毒隨大小便出。

☆『千金方』卷十 傷寒下 傷寒發黃第五(論一首、證五條、方三十首、

灸圖三首)

黃家至日晡所發熱而反惡寒、此為女勞、得之當膀胱急、小腹滿、體盡黃、額上黑、足下熱、因作黑瘰。其腹臙脹而滿、如欲作水狀、大便必黑、時溇泄、

此女勞疸、非水也。腹滿者難治。

治女勞疸、**消石礬石散**方。

消石 礬石(各半兩)。

右二味、治下篩、以大麥粥汁服方寸匕、日三。重衣覆取汗、病隨大小便出、小便正黃、大便正黑。

■黑疸方三首

◎深師、療黑疸身體及大便正黑、**赤小豆茯苓湯**方。

赤小豆(三十枚) 茯苓(六銖) 瓜蒂(四銖) 雄黃(二銖) 甘草(半兩、

炙) 女萎(四銖)

右六味、切、以水三升、煮小豆、茯苓、取八合汁、搗後四藥為散、取前汁調半錢匕、適寒溫服之、須臾當吐、吐則愈。

一方云、療久黃疸。

忌大醋、海藻、菘菜。

千金翼同。

出第二十卷中。(千金方)名**赤苓散**

☆『千金翼方』卷十八 雜病上 黃疸第三

赤苓散、主黑疸、身皮大便皆黑方

赤小豆(參拾枚) 茯苓(陸銖、切) 雄黃(壹銖) 瓜丁(肆銖) 女萎(陸銖)

甘草(貳銖、炙)

右陸味、以水參升、煮豆茯苓、取八合、搗四味為散、和半錢匕服之。須臾當吐、吐則愈。亦主一切黃。

■酒疸方七首

◎深師、酒疸艾湯方。

生艾葉(二把) 麻黃(二兩、去節) 大黃(六分) 大豆(二升)

右四味切、清酒五升、煮取二升、分為三服。

出第三十卷中。

★千金、又肉疸、飲少小更多、白如泔色、得之從酒、寒水石散方(第三)。

寒水石(五分) 白石脂(五分) 栝樓(五分) 菟絲子(三分、酒漬) 知母(三分) 桂心(三分)

右六味搗篩、麥粥服五分匕、日三服、五日知。

忌生葱。

古今錄驗、深師等並同。

☆『千金翼方』卷十八 雜病上 黃疸第三

寒水石散、主肉疸、飲少小更多、白如泔色、此病得之從酒方。

寒水石 白石脂 栝樓(各五分) 知母 菟絲子 桂心(各參分)

右陸味、搗篩為散、麥粥服五分匕、日三、五日知、十日差。

右陸味、搗篩為散、麥粥服五分匕、日三、五日知、十日差。

★古今錄驗、療酒癖及飲、黃疸散方。

芫花 椒目(各等分)

右二味、搗、下篩為散、平旦服一錢匕、老少半服之、藥攻兩脅則下便愈、

間一日復服、使小減如前、又與之使盡根源。

出第二十七卷中。

深師同。

■穀疸方三首

★崔氏、療黃疸身體面目盡黃、茵陳湯。太醫校尉史脫方。〔醫心方〕卷

十 治穀疸方 第二十七所引僧深方、治穀疸發寒熱、不可食、食即頭眩、

心中佛冒不安、大茵陳湯方に類似)

茵陳蒿(三兩) 黃連(二兩) 黃芩(三兩) 梔子(十四枚) 大黃(二兩)

甘草(二兩、炙) 人參(二兩)

右七味、切、以水一斗煮。取三升、分三服。

(前出、見黃疸遍身方二十一首)

■雜黃疸方三首

★千金、濕疸之為病、始得之、一身盡疼、發熱、面色黃黑、七八日後壯熱、

熱在裏、有血當下去之、如豚肝狀。其小腹滿者、急下之。亦一身盡黃、目黃、

腹滿、小便不利、礬石散方。

礬石(五兩) 滑石(五兩)

右二味為散、大麥粥汁服方寸匕、日三服、當先食服、便利如血者、當汗出差。

出第十卷中。

深師、古今錄驗並同。

☆『千金方』卷十 傷寒下 傷寒發黃第五(論一首、證五條、方三十首、

灸圖三首)

濕疸之為病、始得之一身盡疼、發熱、面色黑黃。七八日後壯熱、熱在裡有血、

當下、去之如豚肝狀。其小腹滿者、急下之。亦一身盡黃、目黃腹滿、小便不利方。

礬石・滑石（各五兩）。

右二味、治下篩、大麥粥汁服方寸匕、日三。當先食、服之。便利如血者已、當汗出差。

★古今錄驗、九疸秦王散方。

胃瘰、食多喜飲。（梔子仁主之）

心瘰、煩心中熱。（葛根主之）

腎瘰、其人唇乾。（葶藶子主之、熬）

脾瘰、溺赤出少、心惕揚若恐。（枳椇主之）

肺瘰、飲少小便多。（秦椒汗、瓜蒂主之、一云膏疸）

舌瘰、渴而數便。（石鍾乳主之）

肉瘰、其人小便白。（凝水石主之）

髓瘰、目眶深、多嗜臥。（牡蠣、澤瀉主之）

肝瘰、胃熱飲多水激肝。（白朮主之）

右十一味、名**秦王散**、各等分、隨病所在加二分、搗合下篩、飲服五分七、

日三、稍加至方寸匕。

忌桃李、雀肉等。

膏瘰、飲少小便多、**秦椒散**方。

秦椒（一分、汗） 瓜蒂（二分）

右二味搗下篩、水服方寸匕、日三服。

出第二十七卷中。

深師、千金同。

☆『千金翼方』卷十八 雜病上 黃疸第三

秦王九疸散方

胃瘰、食多喜飲、梔子仁主之。

心瘰、煩心中熱、茜根主之。

腎瘰、腎乾、葶藶子主之。（熬）

脾瘰、尿赤出少、惕揚恐、枳椇主之。

膏瘰、飲少尿多、秦椒瓜蒂主之。（椒、汗。膏一作肺）

舌瘰、渴而數便、鍾乳主之。

肉瘰、小便白、凝水石主之。（研）

髓瘰、目眶深、多嗜臥、牡蠣澤瀉主之。

肝瘰、胃熱飲多、水激肝、白朮主之。

右壹拾壹味、等分、隨病所在加半兩、搗篩為散、飲服伍分匕、

日三。稍稍加至方寸匕。

☆同上

秦椒散、主膏瘰、飲少溺多方

秦椒（壹分、汗） 瓜丁（半兩）

右貳味、搗篩為散、水服方寸匕、日三。

『外臺秘要方』卷五

■療癰方二十一首

◎深師、療癰、膈痰不得吐、宜吐之、**常山烏梅湯**方。

烏梅（半兩） 桂心（半兩） 芫花（半兩） 豉（五合、綿裹） 半夏（半兩）

常山（半兩）

右六味、切、以酒三升、水四升、合煮。取二升、分三服、必得吐。

一方、取三升。

忌生葱、羊肉、鰾、生菜。

(二方、無半夏、常山)

◎又(第二)療瘧丸神方。

人參(三分) 鉛丹(三分) 天雄(十分、熬)

右三味、搗合下篩、蜜和。初服二丸、如梧子、臨發服二丸、中當溫熱、四肢淫淫痺為知。

服藥忌飽飯食、瘧斷後、食如常、萬不失一。

備急、文仲同。

◎又(第三)療瘧療膈湯方。

常山(三兩) 甘草(三兩、炙) 松蘿(二兩) 烏梅(十四枚) 黃芩(二

兩) 瓜蒂(十四枚) 梔子仁(十四枚、擘)

右七味、切、以酒二升、漬一宿、明旦以水四升、煮。取三升、分三服。

忌海藻、生葱、生菜、菘菜等。

◎又(第四)瘧結實積熱、煩擾迷冒、寒熱但多、綿憊困篤、常山大黃湯方。

常山(三兩) 甘草(三兩、炙) 前胡(三兩) 大黃(三兩)

右四味、切、以水一斗煮。取三升半、下大黃、煎。取三升、分澄令冷、初服七合、中服八合、比欲發服九合。

王文州太子因瘧危困、服此皆愈。

忌海藻、菘菜、生葱、生菜等。

◎又(第五)療瘧醇醪湯方。

生薑(三兩) 烏梅(三七枚、擘) 一方十四枚) 甘草(二兩、炙) 桂心

(二兩) 常山(三兩) 囊荷根(三兩)

右六味、切、以水六升、煮。取一升、曰醇、未發時、須頓服。更以水三升、煮、取一升、曰醪。至發不斷、復頓服、甚良。

別方說、發日平旦服醪一升、以醇著頭邊、若欲發便服醇、神良。二說不同也。

出第二十二卷中。

忌海藻、菘菜、生葱、生菜。

■久瘧方八首

◎深師、療久瘧難斷、香豉丸方。

香豉(一分、熬) 常山(七分) 蜀漆(十分) 附子(二分、炮) 大黃(三

分、好者)

右五味、搗下篩、蜜和。發日早、服五丸、如梧子、須臾又服五丸。發晚者、至發可三四服、令其得吐為佳、欲不即斷畏吐者、但則長將久服、無不差也。

忌生葱、生菜、猪肉。

◎又(第二)療三十年瘧、常山湯方。

常山(三兩) 黃連(三兩)

右二味、切、以酒一斗、宿漬之。向晚以瓦釜煮。取六升、一服八合。比發時、令得三服、有熱當吐、有冷當下、服之者千百無一不斷。亦可半合、無服全劑者。

並出二十二卷中。

忌猪肉、冷水、生葱、生菜。

■許仁則療瘧方四首

又療此病、曾用釋深師一方、大有效。

其方有巴豆、皂莢、藜蘆、三味作丸服、雖經困苦、一服永斷。並出第一卷中。與昇同。

『外臺秘要方』卷六

■霍亂煩躁方八首

★備急、療霍亂煩躁方。〔醫心方〕卷十一 治霍亂心腹脹滿方 第三所引僧深方、治霍亂腹脹滿不得吐方に類似）

黃梁米粉半升、水一升半、和攪如白飲頓服。糯米亦得。

■霍亂乾嘔方五首

★千金、療霍亂引飲後輒乾嘔方。〔醫心方〕卷十一 治霍亂心腹痛方 第二所引僧深方、治霍亂腹痛而煩方に類似）

生薑五兩

水五升煮。取二升半、分二服。

又、煮高良薑飲之、大佳。

延年祕錄・備急・小品・崔氏・張文仲同。

出第二十卷中。

☆『千金方』卷二十 膀胱腑 霍亂第六（論二首、證四條、方二十八首、灸法十八首）

霍亂引飲、飲輒乾嘔方、

生薑 五兩

咬咀、以水五升煮。取二升半、分二服。

高良薑、大佳。

『外臺秘要方』卷七

■冷氣心痛方五首

◎深師、療胸滿短氣、心痛吐、茯苓、防風茯苓湯方。

防風（二兩） 茯苓（二兩） 桂心（六兩） 甘草（二兩、炙） 半夏（四兩、洗） 乾薑（四兩、炮） 人參（三兩）

右七味、切、以水一斗、煮。取三升、絞去滓、分三服、良。

忌酢物、生葱、海藻、菘菜、羊肉、錫。

出第十六卷中。

■心腹痛及脹滿痛方一十首

◎深師、療久寒冷、胸膈滿、心腹「手激」痛、不能食、葱乏吸吸不足、前胡湯方。

前胡（二兩） 羊脂（二兩） 大棗（二十枚、擘） 當歸（二兩） 茯苓（一兩）

白朮（二兩） 芍藥（六分） 桂心（二兩） 半夏（二兩） 乾薑（二兩）

麥門冬（六分、去心） 吳茱萸（三百粒）

右十二味、切、以水八升、煮。取三升、分三服、相去如人行十里、進一服。

忌酢物、生葱、羊肉、錫、桃李、雀肉等。

出第十六卷中。

■心腹脹滿及鼓脹方一十四首

◎深師、療腹脹滿彭彭、逆害飲食、煩熱不得臥、流汗、厚朴湯方。

厚朴（炙） 桂心 芍藥 半夏（洗、各三兩） 枳實（三枚、炙） 甘草（二兩、炙） 麥門冬（四兩、去心） 黃芩（二兩） 乾薑（二兩）

右九味、切、以水一斗、煮。取二升半、絞去滓、服八合、日三。

小便難、加朮三兩、人參四兩。

忌生葱、海藻、菘菜、羊肉、錫。

出第十六卷中。

■寒疝心痛方三首

★范汪、大茱萸丸、療心腹寒疝、胸中有逆氣、時上搶心痛、煩滿不得臥、面目惡風、悸掉、惕惕時驚、不欲飲食而嘔、變發寒熱方。

吳茱萸（半升） 細辛 芍藥 柴胡（一方用前胡） 旋復花 黃芩紫菀
人參 白朮 茯苓 乾薑 桂心 附子（炮） 甘草（炙） 半夏（洗） 當歸（各半兩）

右十六味、搗篩、以蜜和、為丸、如梧子。先食服三丸、日三、不知稍加。忌生葱、羊肉、鰻、酢物、桃李、雀肉、猪肉、生菜、海藻、菘菜、除此更無所忌。深師同。

出第十四卷中。（一方、有蜀椒、無桂心。又一方、有乾地黃、無黃芩。）

■七疝方三首

★古今錄驗、七疝丸、療疝諸寒、臍傍痛上、支胸中滿少氣。太醫丞璆之方。

〔醫心方〕卷十 治七疝方第三所引錄驗方、七疝丸注所引僧深方に類似

蜀椒（五分、汗） 乾薑 厚朴（炙） 黃芩 細辛 芍藥 桂心（各四分）
桔梗（二分） 烏喙（二分、炮） 柴胡（二分） 茯苓（二分） 牡丹皮（二分）

右十二味、搗篩、蜜和丸梧子大、先舖、以酒服七丸、日三。不知漸加、以知為度。

忌猪肉、冷水、生葱、生菜、酢物、胡荽。

范汪同。

出第十卷中。

■寒疝不能食方四首

◎深師、療虛冷心腹寒疝、胸脅支滿、飲食不消、腹中痛、久痢頸強、芎藭丸方。

芎藭（七分） 烏頭（四分、炮） 防葵（三分） 蜀椒（九分、汗） 白薇（二分） 桂心（十分） 白芷（五分） 茱萸（六分） 乾薑（八分）

右九味、搗篩、蜜和、丸如梧子。飲服二丸、日三。稍加至五六丸、以知為度。忌猪肉、冷水、生葱。范汪同。

◎又（第二）主虛冷痰癖疝、食不消、心腹痛、氣弱不欲食、虛憊羸瘦、吳茱萸丸方。

吳茱萸（十分） 紫菀（三分） 白薇（三分） 烏頭（十分、炮） 桂心（六分） 前胡 芍藥 細辛 芎藭 黃芩（各五分）

右十五味、下篩、蜜和。酒服、如梧子、五丸、日三、稍加之。忌猪肉、冷水、桃李、生葱、生菜等。

出第十六卷中。

〔宋臣注云、謹按別本有此方、元欠五味。按忌法有桃李、即當用白朮、恐後古今錄驗治寒疝積聚是全方位。〕

★同卷 寒疝積聚方四首所引古今錄驗、療久寒三十歲、心腹疝、癥瘕積聚、邪氣往來、厥逆搶心痛、大痺羸瘦少氣、婦人產乳餘疾、胸脅支滿、不嗜食、手足惰煩、月水不通、時時便血、名曰、破積聚烏頭續命丸方。

食茱萸（十分） 芍藥（五分） 細辛（五分） 前胡（五分、一云柴胡）
乾薑（十分） 烏頭（十分、炮） 紫菀 黃芩 白朮 白薇（各三分） 芎藭

人參 乾地黄（各五分） 蜀椒（十分、汗） 桂心（十分）

右十五味、搗篩、蜜和、為丸如梧子大。先食、服三丸、日三。不知、稍加至七丸。

忌生菜、生葱、猪肉、冷水、桃李、雀肉、蕪荑等。

范汪同。

出第十卷中。

■寒疝積聚方四首

◎深師、破積丸、療寒疝久積聚、周走動搖、大者如鰲、小者如杯、乍來乍去、在於胃管·大腸、脹滿不通、風寒則腸鳴、心下寒、氣上搶、胸脅支滿、莛

花丸方。

莛花（二分） 蜀椒（二分、汗） 大黃（六分） 細辛（六分） 桔梗（五分）

烏頭（四分、炮） 茱萸 芍藥 茯苓（各三分） 龍膽（二分） 半夏（一分、洗）

右十一味、搗篩、蜜和、丸如梧子大。飲服五丸、日三。當下如泥、病愈。

忌猪羊肉、鰻、酢物、生菜等。

◎又（第二）當歸丸、療心腹勞強、寒疝、邪氣往來、牢堅固結聚、苦寒煩悞。

（於緣切。下同）不得臥、夜苦汗出、大便堅、小便不利、流飲在腹中、食不生肌方。

桔梗（二分） 葶藶子（熬、五分） 藜蘆（炙、二分） 厚朴（炙、五分）

杏人（五十枚、去皮尖） 附子（炮、五分） 桂心 人參（各三分） 沙參（三分） 特生豐石（一兩、燒半日）

右十味、搗篩、蜜和、如梧子。飲服三丸、日三、稍加之。

忌猪肉、生葱、冷水。

出第二十二卷中。

『外臺秘要方』卷八

■痰飲食不消及嘔逆不下食方九首

★范汪、薑椒湯、主胸中積聚痰飲、飲食減少、胃氣不足、欬逆吐吐方。

半夏（三兩、洗） 生薑（汁、七合） 桂心 附子 甘草（炙） 茯苓 桔

梗（各二兩） 蜀椒（二合、汗） 橘皮（二兩、切）

右九味、切、以水七升煮。取二升半、去滓、內薑汁煎、取四升半、分三服、服三劑佳。

若欲服大散、并諸五石丸、必先服此方及進黃耆丸輩、必佳。

忌海藻、菘菜、羊肉、鰻、生葱、猪肉、冷水、酢物。

千金翼、深師同。

☆『千金翼方』卷十九 雜病中 淡飲第四（方二十四首）

薑椒湯、主胸中積聚痰飲、飲食減少、胃氣不足、欬逆嘔吐方。

生薑汁（柒合） 蜀椒（參合、汗、去目閉口者） 半夏（參兩、洗） 橘皮

（貳兩） 茯苓 桔梗 桂心 附子（炮、去皮） 甘草（炙、各壹兩）。

右玖味、咬咀、以水柒升煮。取貳升伍合、去滓、內薑汁煎取貳斗、分參服、

服兩劑佳、若欲服大散諸五石丸、必先服此方、乃進黃耆丸輩、必佳。

☆『千金方』卷十八 大腸腑 痰飲第六（論一首、方四十一首、灸法一首）

薑椒湯、主胸中積聚痰飲、飲食減少、胃氣不足咳逆嘔吐方。

薑汁（七分） 蜀椒（三合） 半夏（三兩） 桂心 附子 甘草（各一兩）

橘皮 桔梗 茯苓（各二兩）

右九味咬咀、以水九升煮。取二升半、去滓、內薑汁煮。取二升、分三服。

服三劑、佳。

若欲服大散諸五石丸，必先服此湯，及進黃耆丸，佳。

一方，不用甘草。

■支飲方九首

◎深師、療心下有支飲，其人喜眩，（一作苦胃）澤瀉湯方。

白朮（二兩）澤瀉（五兩）

右二味、切，以水二升、煮。取一升。又以水一升、煮。取五合。合此二汁、分為再服。

忌桃李、雀肉等。（此本仲景傷寒論方。）

☆『金匱要略』卷十二 痰飲欬嗽病脈證并治第十二

心下有支飲，其人苦冒眩，澤瀉湯主之。

澤瀉湯方。

澤瀉五兩 白朮二兩

右二味，以水二升煮，取一升，分溫再服。

★千金，又膈間支飲，其人喘滿，心下痞堅，面顴黑，其脈沈緊，得之數十日，醫吐下之不愈，木防已湯主之方（第七）。

木防已（三兩）石膏（雞子大三枚）桂心（二兩）人參（四兩，切）

右四味，以水四升、煮。取二升，去滓，分再服。虛者即愈，實者三日復發，則復與。

不愈者，宜去石膏，加茯苓、芒硝湯方。

木防已（三兩）桂心（二兩）人參 茯苓（各四兩）芒硝（三合）

右五味，以水六升煮四味，取二升，去滓，內芒硝，分溫再服，取微下利則愈。忌生葱。

深師同。

並出第十八卷中。（此本仲景傷寒論方。）

☆『金匱要略』卷十二 痰飲欬嗽病脈證并治第十二

膈間支飲，其人喘滿，心下痞堅，面色顴黑，其脈沈緊，得之數十日，醫吐下之不愈，木防已湯主之。

虛者則愈，實者三日復發。

復與不愈者，宜木防已湯去石膏，加茯苓、芒硝湯主之。

木防已湯方、

木防已三兩 石膏十二枚 雞子大 桂枝二兩 人參四兩

右四味，以水六升煮，取二升，分溫再服。

木防已加茯苓芒硝湯方、

木防已 桂枝各二兩 人參 芒硝三合 茯苓各四兩、

右五味，以水六升煮。取二升，去滓，內芒硝，再微煎。分溫再服，微利則愈。

☆『千金方』卷十八 大腸腑 痰飲第六（論一首，方四十一首，灸法一首）

膈間有支飲，其人喘滿，心下痞堅，面顴黑，其脈沈緊，得之數十日，醫吐下之不愈，木防已湯主之方。

木防已（三兩）桂心（二兩）人參（四兩）石膏（雞子大十二枚）。

右四味，咬咀，以水六升煮。取二升，分二服，虛者即愈，實者三日復發，發則復與。

若不愈，去石膏，加茯苓四兩，芒硝三合，以水六升煮。取二升，去滓，下消令烱，分二服，微下利，即愈。

一方，不加茯苓。

■酒澥飲方三首

◎深師、消飲丸、療酒澥、飲酒停痰水不消、滿逆嘔吐、目視茫茫、耳聾、

腹中水聲方。

乾薑 茯苓（各三兩） 白朮（八兩） 枳實（四枚、炙）

右四味、搗篩、蜜和丸、服如梧子五丸。日三、稍加之。若下、去枳實、加

乾薑二兩、名為「五飲丸」。

忌桃李、雀肉、大醋、生冷之類。大神驗。

◎又（第二）倍朮丸、療五飲酒澀方。

白朮（一斤） 桂心 乾薑（各半斤）

右三味、搗篩、蜜和、丸如梧子。飲服十丸、稍加之。取下、先食服之、日再。

忌桃李、雀肉、生葱。

◎又（第三）溫脾丸、療久寒宿食酒澀方。

乾薑（三兩、熬黃） 芍藥（三兩、熬干） 蜀椒（二兩、汗） 大黃（八兩、

切熬令黃黑） 小草（一兩、熬乾） 芎藭（熬黃） 茯苓 桃仁（去尖皮、熬）

柴胡（熬干、各三兩）

右九味、搗篩、蜜和、更搗萬杵、服如大豆許十丸、日三。

忌大醋。

並出第二十三卷中。

■留飲宿食方七首

◎深師、通草丸、療積聚留飲宿食、寒熱煩結、長肌膚、補不足方。

椒目 附子（炮） 半夏（洗） 厚朴（炙、各二兩） 芒硝（五兩） 大黃（九

兩） 葶藶（三兩、熬） 杏仁（三兩、去尖皮、熬）

右八味、搗、篩為末、別搗葶藶、杏仁令如膏、合諸末、以蜜和丸、搗五千杵、

服如梧子二丸。

忌猪羊肉、鴈等。大效。

出第二十三卷中。（方中無通草、未詳其名。）

■飲澀方二首

◎深師、附子湯、療氣分、心下堅如盤、邊如旋杯、水飲所作、此湯主之方。

桂心（三兩） 生薑（三兩） 麻黃（去節、三兩） 甘草（炙、二兩） 細

辛（三兩） 大附子（二枚、炮） 大棗（十二枚）

右七味、切、以水七升、先煮麻黃再沸、掠去沫、乃下諸藥、煮取二升、去滓、

分服七合。當汗出如蟲行皮中、即愈、神驗。

忌海藻、菘菜、猪肉、生葱、冷水、生菜等。

並出第二十二卷中。（仲景傷寒論名桂枝去芍藥加麻黃細辛附子湯。）

☆『金匱要略』卷十四 水氣病脈證并治第十四

氣分、心下堅、大如盤、邊如旋杯、水飲所作、桂枝去芍藥加麻黃細辛附子湯主之。

桂枝去芍藥加麻黃細辛附子湯方、

桂枝 生薑三兩 甘草二兩 大棗十二枚 麻黃 細辛各二兩 附子一枚、

炮、

右七味、以水七升、煮麻黃、去上沫、內諸藥煮。取二升、分溫三服。當汗

出、如蟲行皮中、則愈。

■癰飲方七首

◎深師、朱雀湯、療久病癰飲、停痰不消、在胸膈上液液、時頭眩痛、若攣、

眼睛身體手足十指甲盡黃。亦療脅下支滿飲、輒引脅下痛方。

甘遂 芫花（各二分） 大戟（三分）

右三味、為散、以大棗十二枚擘破、以水六升、先煎棗、取二升、內藥三方

寸匕、更煎。取一升二合、分再服。以吐下為知、未知重服、甚良無比。

出第二十三卷中。(程本有、通按、此即前十棗湯。)

★千金翼、前胡湯、主胸中久寒、癰實宿痰、膈塞胸痛、氣不通利、三焦冷熱不調、飲食損少無味、或寒熱體重、臥不欲起方。

前胡(三兩) 生薑(四兩) 黃芩(二兩) 人參(二兩) 吳茱萸(一兩)
大黃(二兩) 防風(一兩) 杏仁(三十枚、去皮尖) 當歸 甘草(各二兩、炙) 半夏(三兩、洗) 麥門冬(二兩、去心)

右十二味切、以水一斗、煮取三升、去滓、分溫三服、日三服、三劑良。

深師云、若脅下滿、加大棗二枚、利水亦佳。

忌海藻、菘菜、羊肉、錫。

☆『千金翼方』卷十九 雜病中 淡飲第四(方一十四首)

前胡湯、主胸中久寒、澀實宿痰、隔塞胸痛、氣不通利、三焦冷熱不調、食飲減少無味、或寒熱體重、臥不欲起方。

前胡 人參 大黃 當歸 甘草(炙、各貳兩) 黃芩 防風 麥門冬(去心) 吳茱萸(各壹兩) 半夏(參兩、洗) 生薑(肆兩、切) 杏仁(參拾枚、去皮尖兩仁)

右壹拾貳味、咬咀、以水壹斗煮。取參升、分參服、日參。

☆『千金方』卷十八 大腸腑 痰飲第六(論一首、方四十一首、灸法一首)

前胡湯、治胸中久寒、澀實、隔塞胸痛、氣不通利、三焦冷熱不調、食飲損少無味、或寒熱身重、臥不欲起方。

前胡(三兩) 黃芩 麥門冬 吳茱萸(各一兩) 生薑(四兩) 大黃 防風(各二兩) 人參 當歸 甘草 半夏(各三兩) 杏仁(四十枚)。

右十二味、咬咀、以水一斗煮。取三升、去滓、分三服。

(深師方云、若脇下滿、加大棗十二枚。此利水、亦佳)。

★又(第二) 薑附湯、主痰癰氣方。

生薑(八兩、切) 附子(四枚)

右二味、水五升、煮取二升、分再服。亦主卒風大良。忌猪肉、冷水。深師同。

出第十九卷中。

☆『千金翼方』卷十九 雜病中 淡飲第四(方一十四首)
薑附湯、主淡癰氣方。

生薑(捌兩、切) 附子(肆兩、生。去皮。肆破)

右貳味、以水捌升煮。取貳升、分肆服、日貳。亦主卒風、大良。

☆『千金方』卷十八 大腸腑 痰飲第六

薑附湯、主痰冷癰氣、胸滿短氣、嘔沫、頭痛、飲食不消化方。

生薑(八兩) 附子(四兩、生用、四破)
右二味、咬咀、以水八升煮。取二升、分四服。亦主卒風。

■痰厥頭痛方八首

★千金翼、葱白湯、主冷熱膈痰、發時頭痛悶亂、欲吐不得方。

葱白(二七莖) 烏頭(二分、炮) 甘草(二分、炙) 真朱(二分、研常山(二分) 桃葉(一把)

右六味、切、以酒四升水四升合煮。取三升、去滓、內真朱、服一升、得吐止。忌海藻、菘菜、猪肉、冷水、生葱、生菜、生血等物。

千金、深師同。

☆『千金翼方』卷十九 雜病中 淡飲第四(方一十四首)
葱白湯、主冷熱膈痰、發時頭痛悶亂、欲吐不得方。

葱白(貳柒莖、切) 桃葉(壹把) 烏頭(炮、去皮) 真珠 常山 甘草(炙、各半兩)

右陸味、咬咀，以酒肆升、水肆升、合煮。取參升、去滓，內真珠，服壹升。得吐，止。

☆『千金方』卷十八 大腸腑 痰飲第六（論一首方四十一首灸法一首）

葱白湯，治冷熱膈痰、發時頭痛悶亂、欲吐不得者方。

葱白（二七莖） 烏頭 甘草 真朱 恒山（各半兩） 桃葉（一把，一作枇杷葉）

右六味、咬咀，以水酒各四升和煮，取三升，去滓，內朱，一服一升。吐即止。

★千金翼，又（第二）療痰飲頭痛、往來寒熱方。

常山（一兩） 雲母粉（二兩）

右二味為散，熟湯服方寸匕，吐之止。若吐不盡，更服。

忌生葱、生菜。

深師云、雲母半兩鍊之、餘同。

並出第十九卷中。

☆『千金翼方』卷十九 雜病中 淡飲第四（方二十四首）

治淡飲頭痛往來寒熱方

常山（壹兩） 雲母粉（貳兩）

右貳味、搗篩為散，熟湯服壹方寸匕。吐之、止。吐不盡，更服。

■五膈方八首

★古今錄驗，又療邪氣嘔逆，吸氣五膈為病，五藏俱虛，則受風冷。五藏有邪，呼吸不足，陰注於內，陽結於外，陰陽錯亂，語言無常，俠舌左右，狀如結氣，喉咽不利，氣出不入，此血氣衰微，藏凝冷氣成之。服此丸，安穀·通氣·溫藏、**五膈丸**出僧深方（第三）。

蜀椒（二升、汗） 乾薑（二兩） 桂心（二兩） 芍藥（二兩半） 半夏（洗）

細辛 茯苓（各一兩） 前胡（二兩半）

右八物、搗篩、蜜和。服如彈丸一枚，喉中稍稍吞之。可增至三丸。或冷則加遠志二兩佳，日再。

忌羊肉、錫、生葱、生菜、醋物。

■氣噎方六首

◎深師、療胸滿氣噎、通氣湯方。

半夏（八兩、洗） 生薑（六兩） 桂心（三兩） 大棗（三十枚、擘）

右四味、切，以水八升、煮。取三升、分服五合，日三夜一。

忌羊肉、錫、生葱。

千金同。

出第二十二卷中。

☆『千金方』卷十六 胃腑 噎塞第六（論一首方二十八首）

通氣湯，主胸滿氣噎方。

半夏（八兩） 生薑（九兩） 桂心（三兩） 大棗（三十枚）

右四味、咬咀，以水八升煮。取三升、分五服，日三、夜二服。

★古今錄驗、**羚羊角湯**、療噎氣不通、不得下食方。

羚羊角（屑，二兩） 厚朴（炙） 吳茱萸 乾薑（各三兩） 通草 橘皮（各二兩） 烏頭（十五枚、炮）

右七味、切，以水九升煮。取三升、分三服，日三。

忌猪肉、冷水。

深師、千金同。

出第二十七卷中。

☆『千金方』卷十六 胃腑 噎塞第六（論一首方二十八首）

羚羊角湯、治氣噎不通、不得食方。

羚羊角 通草 橘皮(各二兩) 厚朴 乾薑 吳茱萸(各三兩) 烏頭(五枚)

右七味、咀咀、以水九升煮。取三升、分三服、日三。

■諸噎方一十二首

◎深師、療噎方。

羚羊角(屑) 前胡 甘草(各一兩) 人參 橘皮(各二兩)

右五味、切、以水六升、煮。取二升、分四服。

忌海藻、菘菜。

◎又方(第二)、

鸕鷀喙

右一物、當噎時以銜之、則下。

肘後同。

☆『肘後備急方』卷六

附方『外台秘要』、療鯁。又方(第三)、

口稱鸕鷀、則下。

◎又方(第三)、

羚羊角

右一物、多少自在、末之、飲服亦可。以角摩噎上、良。

並出第二十二卷中。

★集驗、療噎方。

取頭垢如棗大、以粥若漿水和、服之。

肘後、深師同。

出第十卷中。

☆今本『肘後備急方』闕。

■卒食噎方九首

★肘後、又方(第二)、

春杵頭糠、置手巾角以拭齒、立下。

集驗、深師、千金同。

並出第五卷中。

☆今本『肘後備急方』闕。

☆『千金方』卷十六 胃腑 噎塞第六(論一首、方二十八首)

治卒噎方。又方(第三)。

刮春杵頭細糠、含之、即下。神驗。

☆『千金翼方』卷十一 小兒 噎病第十(方二首)

又方(第二)、

以手巾布裹春杵頭糠拭齒。

◎深師、療卒噎法。

傍人可緩解衣帶、勿令噎者知、則愈。

◎又(第二) 療卒噎方。

與共食人當以手捉噎人箸、問曰、此等何物。噎人當荅言筋。共食人云、噎

下去。則立愈。

◎又(第三) 療卒噎不下方。

水一杯 刀一口

右二物、先以刀橫畫水、已後、盡飲之、則下。

出第二十二卷中。

★備急、又方（第二）、

取老牛涎沫如棗核大、置水中飲之、終身不有噎。

必效、肘後、深師、千金同。

並出第三卷中。

☆『肘後備急方』卷六

治卒食噎不下方第四十九又方（第二）、

取老牛涎沫如棗核大、置水中、飲之。終身不復患噎也。

☆『千金方』卷十六 胃腑 噎塞第六（論一首方二十八首）

治諸噎方、又方（第三）、

老牛涎棗核大、水中飲之、終身不復噎。

■諸骨哽方三十五首

★肘後、又方（第四）、

燒雞足末、服方寸匕、酒下、立出。

深師同。

☆今本『肘後備急方』闕。

★又方（第五）、

生艾蒿數升、水酒共一斗、煮取三四升、稍稍飲之。

深師同。

☆『肘後備急方』卷六 治卒誤吞諸物及患方第五十一

附方

鐵相公『篋中方』、療誤吞錢。又方（第二）、

取艾蒿一把、細銼、用水五升、煎取一升、頓服、便下。

◎深師、療食魚骨哽方。

捕魚網燒、飲服刀圭匕、良。是魚哽、燒魚網服之良。

◎又（第二）療哽及刺不出方。

服薔薇灰末方寸匕、日三。亦療折箭刺入、膿囊不出、堅燥及鼠撲、服之日、

哽刺皆穿皮出、效。

◎又（第三）療鐵棘竹木諸刺在肉中、折不出、及哽不下方。

半夏（二兩、洗） 白斂（二兩）

右二物、搗篩、酒服半錢匕、日三。寧從少起者、半夏戟人喉中故也。

忌羊肉、錫等。加乾薑一兩尤佳。

◎又方（第四）、

鼠腦、厚塗瘡上則出、亦可用填鼠、大效。

◎又療哽方（第五）。

蝮蝨腦

右一物、吞即下。亦療刺不出、塗刺瘡上。

◎又療咽哽方（第六）。

取魚尾、著衣領、令下推、立下。

◎又方（第七）、

白斂白等分、搗散、飲服刀圭。

◎又療食哽方（第八）。

鷹糞燒（程本下有灰存性句。）

右一物、下篩、服方寸匕。虎狼鵬屎皆可服之、佳。

◎又（第九）療骨哽咽不得下飲食方。

白雞翼翻大毛各一枚、著銅器中燒之、焦作灰、飲服一刀圭、立下。

◎又（第十）療哽方。

半夏（五兩、洗） 白芷（五兩）

右二物、搗篩。服方寸匕，則嘔出。

忌羊肉、錫。

◎又方（第十一）、

以東流水一杯，東向坐，以手指畫水中，作龍字訖，飲水。不自曉書，令人持手書，良。

◎又方（第十二）、

凡書文曰，天有門，地有根，諸家入口者，皆當得吞。

集驗同。

並出第二十二卷中。

★千金、又療諸哽方（第六）。

作竹篾，刮令滑，綿纏，內咽中，令至哽處，可進退引之，哽即出。

小品、古今錄驗、深師同。

☆『千金方』卷十六 胃腑 噎塞第六（論一首、方二十八首）

治諸哽方，又方（第二）、

作竹篾，刮令滑，綿裹，內咽中，令至哽處，可進退引之，哽即隨出。

★張文仲、又方（第二）、

小嚼薤白令柔，以繩繫中央，持繩一端，吞薤到哽處引，哽當隨出。

集驗、古今錄驗、深師、備急、千金同。

☆『千金方』卷十六 胃腑 噎塞第六（論一首方二十八首）

治諸哽方，又方（第四）、

煮薤白令半熟，小嚼之，以線繫薤中央，捉線處薤，下喉，至哽處牽引，哽即出矣。

◎深師、療誤吞鉤方。

虎珀珠

右一物，貫著鉤繩，推令前入至鉤所，又復推，以牽引出矣。若水精珠、卒無珠，堅物摩令滑，用之也。

出第二十二卷中。

★張文仲、又療誤吞錢方（第二）。

擣火炭末，服方寸匕，則出。

肘後、小品、集驗、千金、備急、深師同。

☆『肘後備急方』卷六 治卒誤吞諸物及患方第五十一

誤吞錢。

燒火炭末，服方寸匕，即出。

短劇同。

☆『千金方』卷十六 胃腑 噎塞第六（論一首、方二十八首）

治吞錢方，又方（第二）、

末火炭，酒服方寸匕。水服，亦得。

■雜誤吞物方一十七首